

第一生命経済研究所のホームページご紹介

アドレス：<http://group.dai-ichi-life.co.jp/cgi-bin/dlri/top.cgi>（「第一生命経済研究所」で検索可能）
8月上旬までに上記ホームページに登場したレポートテーマの一例をご紹介します。このほか数多くの詳細な経済分析レポートが掲載されていますので、経済研レポートと合わせてご活用ください。

～日本経済の直面する様々な課題について分析し、明日の展開を考えます。

2009/7/31 「日銀短観でみた企業収益～非製造業で残る下方修正の可能性～」

2009/7/29 「介護施設の需要はどれだけ増えるか～高齢化と療養病床の受け皿に必要な施設を確保する場合の推計～」

2009/7/23 「所得収支拡大を通じた日本経済の成長～国内購買力の向上でGDP、雇用に押し上げ効果～」

掲載カテゴリ：日本経済分析チームによる「日本経済の羅針盤」

～日々激動する世界の金融市場動向をコンスタントな視点で解説します。

2009/8/10 「Market Watching Weekly Market Report」（毎週月曜日配信）

掲載カテゴリ：畠峰義清の「マーケットウォッチング」

～政治が揺れる環境の下、政策はどうあるべきか、経済とどう向き合うべきかを考えます。

2009/8/3 「ポイント解説：2009年『経済財政白書』～ポスト金融危機の経済戦略への示唆～」

2009/7/13 「政権交代：1993年の細川政権の教訓～2009年と1993年の相似形～」

掲載カテゴリ：熊野英生の「金融市場の謎を解く」

～欧米経済の足元と成長力に期待がかかるアジア・新興国の景気を探ります。

2009/8/13 「海外 経済指標・イベント予定 “Weekly Global Economy”」（毎週木曜日配信）

2009/7/27 「ブラジル経済事情：金融緩和は最終局面、一層の内需喚起を狙う」

2009/7/17 「中国経済事情：成長は再加速もバランスを図る政策が不可欠」

掲載カテゴリ：桂畑誠治の「米国経済を探る」、「アジア・新興諸国経済」

編集後記

経済成長を回復するための方策には大きく分けて二種類。一つはまず国がお金を出して仕事や所得を作り、需要押し上げの弾みをつける方法。比較的早く企業活動につながり、所得が増えて家計は消費をしやすくなる。それでも不況が長引けば、財政赤字増加はとめどなくなる可能性はある。お金の出所は税金である。

「生き金」＝使っただけ価値が生じる金銭。

「死に金」＝使っても効果がなくて、むだになる金。蓄えるばかりで、活用されない金。（以下略）[大辞林]

もう一つは、産業や企業、働く人が競って優れた成果を出しやすい効率的な環境を整えることで経済の体質を強くし、成長力を高める方法。中長期的な成長力向上を目指すものだが、従前の仕組みを手直しすることによって既得権が失われるなど、一旦は産業にも家計にも相当な痛みも伴うことがある。このため景気を浮揚しようという状況においてはなおさら遂行に軋轢が生じやすい。

「総論賛成 各論反対」＝ある企ての主旨自体に反対はしないが、

自分の利害がからむような具体的問題になると異議を言い立てること。[大辞林] (H. U)